

目次

題字 信濃町長

口 刊行のことば
はしがき
目次

信濃町

信濃町のすがた

町の概要

町の位置

町の産業

町の交通

信濃町の自然

一 地勢

1 信濃町の山

飯綱山

黒姫山

斑尾山

2 信濃町の盆地

古海盆地

本道盆地

六月盆地

舟岳盆地

3 各地区の地勢のあらまし

信濃尻地区

古間地区

富士里地区

柏原地区

4 野尻湖

たくさんあつた湖沼

野尻湖の形態

野尻湖はどうしてできたか

象

1 信濃町の十二月

2 各地区の気象

3 気象に関する諸統計

天気日数と最深積雪

昭和42年中月別の気象

年次別気象概況

月別降水量の年変化

霧の発生情況

月別気温の年変化

三 植 物

1 野尻湖周辺の植物

四

2 町内の山の植物

四

黒姫山

五

斑尾山

六

靈仙寺山

六

3 全町的な生物

七

信濃町の歴史 I

原始・上代・中世

六

1 原始時代の信濃町

六

ナウマン象

六

いまのような地形ができるまで

七

人間が住みはじめたころ

七

信濃町から出た石器や土器

七

無土器時代

七

縄文式文化時代

七

狐久保遺跡発掘調査概報

七

弥生式文化時代

七

古墳時代

八

2 上代・中世の信濃町

八

沼辺駅

八

芋川庄

八

野尻関所

八

信濃町の歴史 II (近世)

一 信濃町の領主と政治

一〇

1 信濃町の領主

一〇

武田信玄・勝頼

一〇

森 長可

一〇

上杉景勝

一〇

豊臣秀吉直轄領

一一

森 忠政

一一

松平忠輝と大久保長安

一一

飯山藩佐久間氏

一一

長沼藩佐久間氏

一一

坂木藩板倉氏

一一

飯山藩松平氏

一一

飯山藩永井氏

一一

飯山藩青山氏

一一

飯山藩本多氏

一一

野尻琵琶島弁財天

一一

野尻城

一一

川中島の戦と野尻城・割ガ嶽城

一一

割ガ嶽城

一一

野尻城の取りあい

一一

宇佐美定行(定満)伝説

一一

中世の集落

一一

開かれていく村々……………二〇〇
 村々のはじまり……………二〇〇

熊坂村……………二〇〇

古海村……………二〇〇

野尻村……………二〇〇

柏原村……………二〇〇

大古間村……………二〇〇

小古間村……………二〇〇

船嶽村……………二〇〇

荒瀬原村……………二〇〇

柴津村……………二〇〇

落合新田村……………二〇〇

原新田村……………二〇〇

御料新田村……………二〇〇

落影村……………二〇〇

辻屋村……………二〇〇

中島新田村……………二〇〇

宮之腰新田村……………二〇〇

戸草新田村……………二〇〇

稲付村……………二〇〇

石橋新田村……………二〇〇

板橋新田村……………二〇〇

高山新田村……………二〇〇

新田開発……………二〇〇

近世信濃の新田開発……………二〇〇

新田開発許可状……………二〇〇

仁之倉・熊倉・赤波の開発……………二〇〇

富士里地区諸村の開発……………二〇〇

4 検地……………二〇〇

上杉氏検地……………二〇〇

森忠政検地……………二〇〇

松平遠江守忠俱検地……………二〇〇

5 年貢……………二〇〇

飯山藩領の年貢……………二〇〇

天領の年貢……………二〇〇

金納相場……………二〇〇

代官の教諭書……………二〇〇

二 宿と交通……………二〇〇

1 北国街道ができるまで……………二〇〇

中世の北国往還……………二〇〇

北国街道のはじまり……………二〇〇

北国街道の確定……………二〇〇

伝馬宿書出し……………二〇〇

諸役免除……………二〇〇

宿のしくみ……………二〇〇

一里塚……………二〇〇

2 宿のしくみ……………二〇〇

伝馬屋敷……………二〇〇

宿役人……………二〇〇

馬指……………二〇〇

3	宿の運営	七四
	宿運営のあらまし	七四
	元禄九年当時の宿のようす	七五
	享和二年当時の宿のようす	七六
4	人馬の継立	七九
	御定賃銭	八〇
	佐渡運上金銀の輸送	八三
	囚人通行	八六
	大名通行	八六
	通人馬	八九
	伝馬役の負担の平等	九二
	商人売物の収入の平均化	九二
	役 金	九三
	商 荷 物	九三
5	宿をめぐる紛争	九四
	塩荷についての紛争	九四
	川東道出入	九五
6	宿場への応援・助郷	九三
7	宿場の交通量	九五
8	宿制の改革	九六
9	陸運会社	九〇
三	村のしくみと村のくらし	九三
1	村役人	九三
	三 役	九三
	村役人の仕事	九三

	村役人についての争い	九五
	取締役	九七
2	村財政	九七
	辻屋村の財政	九七
	古海村の財政	九八
	その他の村	九八
	村人の負担	一〇〇
3	坂上村組合	一〇〇
	富士里地区小村の連合体	一〇三
	浪人などの宿泊	一〇三
	伝馬人足の割当て	一〇三
	自衛のとりきめ	一〇三
4	村のくらし	一〇四
	村定め	一〇四
	衣食住	一〇七
5	入会山	一〇六
	割 山	一〇六
四	江戸時代の信濃町の産業	一〇九
1	農 業	一〇九
	田畑の割合	一〇九
	反当収量	一一一
	畑 作	一一四
	農間稼	一一七
2	商工業	一一九
	柏原宿の諸職業	一一九

祭市……………二六〇

3 信州鎌……………二六一

発展期における概況……………二六一

明治後期における鎌生産の拡大……………二六三

鍛冶徒弟制度とその教育……………二六三

鎌の産地間屋制の確立……………二六五

信州鎌の変遷……………二六六

草創期における鎌の構造の改良……………二六七

柏原鎌の元祖久保氏……………二六八

古間鎌の元祖荒井津右衛門……………二七〇

文化十五年大古間の鍛屋……………二七〇

北国街道と鉄の経路……………二七四

入会地と鎌・熱処理と松炭……………二七五

草創期における師匠……………二七七

小林一茶と鍛冶・まとめ……………二七七

五 災害と飢饉……………二七九

1 飢饉……………二七九

天明の飢饉……………二八〇

天保の飢饉……………二八三

2 地震と火災……………二八六

弘化四年の大地震……………二八六

火災……………二八九

六 江戸時代の信濃町の文化……………二九一

1 祭礼……………二九三

祭市……………二九三

歌舞伎芝居……………二九三

2 俳人小林一茶……………二九六

家系……………二九六

少年時代……………二九八

修行時代……………三〇一

柏原帰住後の一茶……………三〇三

一茶の俳諧の特色……………三〇六

一茶をめぐる人々……………三〇三

寿橋のこと……………三〇六

現代社会（政治と社会）

一 村政のあゆみ……………三〇八

1 明治維新と村……………三〇八

2 市町村制が施行されるまで……………三〇九

区制……………三〇九

町村合併（明治八年）……………三〇〇

連合戸長役場……………三〇三

3 市町村制……………三〇三

市町村制にともなう合併……………三〇四

信濃尻村成立にまつわる紛議……………三〇五

4 大正以後の村政のあゆみ……………三〇七

市町村制改正……………三〇七

5 終戦後の村政……………三〇八

戦後の地方自治……………三〇八

6	信濃町の成立……………	三〇〇
	合併までの経過……………	三〇〇
7	歴代村長・助役・収入役……………	三〇四
8	歴代村会議員(村議会議員)……………	三〇七
	上水内郡のうつりかわり……………	三〇六
	郡会議員……………	三〇七
二	村の財政と事業……………	三〇七
1	信濃尻村の財政と事業……………	三〇七
	財政と事業……………	三〇七
	村の財産……………	三〇七
2	古間村の財政と事業……………	三〇六
	開村の期間……………	三〇七
	財産建設……………	三〇七
	道路の開発……………	三〇九
	税種の改正……………	三〇九
	村の行政機構の変貌……………	三〇九
	税制の変遷……………	三〇九
	村の財産……………	三〇七
3	富士里村の財政と事業……………	三〇九
	財産の建設……………	三〇九
	道路の開通……………	三〇九
	村の財政……………	三〇九
4	柏原村の財政と事業……………	三〇九
	明治の初期……………	三〇九
	開村の期間……………	三〇九

	財産の建設……………	三〇九
	道路開発……………	三〇九
	自主発展……………	三〇九
	村の財政……………	三〇九
	村の財産……………	三〇九
	信濃村の財産……………	三〇九
三	各種委員会……………	三〇九
1	選挙管理委員会……………	三〇九
2	農地委員会……………	三〇九
	信濃尻村の農地解放……………	三〇九
	古間村の農地改革の経過……………	三〇九
	富士里村の農地改革前後の農地所有の変化……………	三〇九
	柏原村農地改革経過と当時の農家……………	三〇九
3	食糧調整委員会と農業調整委員会……………	三〇九
4	農業改良委員会……………	三〇九
5	農業委員会……………	三〇九
6	教育委員会……………	三〇九
7	人権擁護委員会……………	三〇九
四	社会福祉事業……………	三〇九
	民生委員会……………	三〇九
	信濃尻村社会福祉協議会……………	三〇九
	古間村社会福祉協議会……………	三〇九
	古間村日赤奉仕団……………	三〇九
	伝染病隔離病舎……………	三〇九
	長水伝染病院でできる……………	三〇九

共同募金	四六九
赤十字社と募金	四六九
古間村の国民健康保険	四六八
柏原村の国民健康保険	四六九
信越病院	四七〇
富士里水道	四七五
柏原村の水道	四七九
古間村の託児所	四八〇
古間村の季節保育所	四八五
仁之倉農繁季託児所設置	四八六
柏原保育所のはじまりとあゆみ	四八七
信濃町になつてからの保育所推移	四八八
古間村の敬老会	四八〇
町内の長寿者	四八〇
身体障害者福祉協議会	四八二
遺族会	四八二
未亡人会	四八三
法務局信濃町出張所(登記所)	四八四
古間村の失業対策事業	四八六
巡查駐在所	四八九
老人クラブ誕生	四九〇
五 各種団体	四九二
1 信濃尻村の各種団体	四九二
消防組	四九二
警防団・消防団	四九三

野尻地区の災害	四九〇
野尻湖地区婦人会	四九〇
野尻湖スキークラブ	四九〇
軍人分会	四九三
さぶなみ合唱団	四九三
2 古間村の各種団体	四九四
消防	四九四
古間地区の災害	四九四
青年団	四九〇
婦人会	四九三
体育協会	四九六
斑尾文化クラブ	四九六
四Hクラブ	四九六
銀の星楽団	四九七
俳句会	四九七
謡曲	四九八
軍人分会	四九八
大政翼賛古間村支部	四九〇
日本翼賛壮年団古間村支部	四九〇
古間村忠魂碑奉賛会	四九〇
各種団体連絡協議会	四九二
3 富士里村の各種団体	四九二
青年会の変遷	四九二
青少年団	四九四
青年団	四九四

婦人会	五五
泉会	五六
大政翼賛会	五六
翼賛壮年団	五七
軍人分会	五七
富士里地区の消防	五七
富士里地区水害	五八
柏原村の各種団体	五九
江戸時代の消防	五九
消防組	五九
警防団	五九
消防団	五九
若衆連	五九
軍人分会	五九
翼賛壮年団	五九
大政翼賛会	五九
青年会および青年団	五九
四日クラブ	五九
体育協会	五九
柏原婦人会	五九
謡曲の会	五九
北しなの会	五九
俳諧寺一茶保存会	五九
黒姫演劇研究会	五九
仁之倉少年団	五九

現代社会（産業と交通）

一	信濃町地区産業の特色	五八
	工業商業が重要な地位を占める産業構造	五八
	非農家が多い	五八
	高い人口増加率	五八
	商工業発達の理由	五八
二	農林水産業	五九
1	産業と経済の概観	五九
2	農作物のうつりかわり	五九
	水稲	五九
	雑穀、野菜、その他	五九
	農産物の検査と統制	五九
	水車製米	五九
3	養蚕の変遷その他	五九
	養蚕	五九
	養蚕についての古間村の諸統計	五九
	各村の夏秋蚕飼育状況	五九
4	林産	六〇
5	家畜	六〇
6	特用作物	六〇
7	購入肥料、農薬	六〇
8	野尻湖養殖事業	六〇
	野尻湖魚業組合	六〇

9 用水と溜池…………… 六八

信濃尻地区の用水など…………… 六八

古間地区の用水と溜池…………… 六三

富士里地区の溜池と用水…………… 六三

柏原地区の用水と溜池…………… 六七

10 信濃町の農業の特色とその将来…………… 六二

遅れた積雪単作農業…………… 六一

鳥居川発電所…………… 六四

越水争論…………… 六四

三 商工業…………… 六八

1 信濃町商工業の歴史と特色…………… 六八

信濃町商工業の歴史…………… 六八

近代工業の発生…………… 六九

非農業人口の増加…………… 六五〇

人口支持力を持つ衛星都市…………… 六三

2 商業と金融…………… 六三

商業…………… 六三

金融…………… 六三

3 工業…………… 六五

鎌工業の歴史…………… 六五

信州鎌の状況…………… 六一

信濃電気製錬株式会社の沿革と現況…………… 六四

信濃電子株式会社…………… 六六

(株)特電・信濃製作所…………… 六九

酒醸造業…………… 六七

4 鉱産…………… 六三

石材…………… 六三

草炭…………… 六四

石油試堀…………… 六五

東北電化工業株式会社…………… 六五

町内の法人営業関係一らん…………… 六五

四 産業機関と団体…………… 六一

1 信濃尻村の産業機関と団体…………… 六一

産業組合…………… 六一

農会…………… 六一

農業会…………… 六一

農業協同組合…………… 六三

信濃尻村森林組合…………… 六五

2 古間村の産業機関…………… 六六

古間村農会…………… 六六

産業組合…………… 六八

農業会…………… 六三

古間村農業協同組合…………… 六四

古間農業共済組合…………… 六七

森林組合…………… 六九

鎌工組合…………… 六九

3 法人…………… 七三

富士里村の産業機関と団体…………… 七三

農会…………… 七三

富士里信用組合…………… 七四

富士里村信用購買組合	七三
富士里村農業協同組合	七六
長野営林署富士里担当区事務所	七〇
柏原村の産業機関と団体	七一
柏原村農会	七一
産業組合から農協まで	七三
長野営林署柏原担当区	七六
営林署貯木場	七九
柏原地区経済更生計画	七五
信濃鎌販売利用組合	七九
柏原村森林組合	七〇
開拓新村の発売	七三
交通と通信	七三
1 柏原村駅伝沿革	七三
駅伝の変遷	七三
駅伝業の種類	七四
2 柏原駅	七五
3 古間駅	七五
4 通信	七二
郵便	七二
柏原郵便局	七三
古間郵便局	七四
野尻湖郵便局	七四
富士里簡易郵便局	七五
電話	七六

有線放送	七九
現代社会(教育と文化)	
1 教育のうっかりかわり	七三
1 寺子屋	七三
筆塚	七四
2 学校創設のころ	七〇
日知学校	七〇
日雀学校	七〇
進登学校	七〇
舟岳学校	七〇
葉薬学校	七〇
3 各学校の沿革	七〇
古海小学校	七〇
野尻小学校	七四
野尻湖中学校	七四
古間小学校	七九
古間中学校	七九
富士里小学校	七三
富士里中学校	七三
柏原小学校	七六
柏原中学校	七六
4 P T A	七六
P T Aの生まれるまで	七六

2	文化の発達	八九
1	新しい生活	八九四
2	生活の向上	八九四
7	公民館	八六一
	設置のよびかけ	八六一
	信濃町公民館	八六一
	信濃尻村公民館	八六三
	古間村公民館	八六四
	富士里村公民館	八六五
	柏原村公民館	八六六
	富士里学校PTA	八六六
	古間学校PTA	八六六
	野尻湖中学校PTA	八六六
	野尻湖小学校PTA	八六六
	古海小学校PTA	八六六
5	青年教育のうごき	八六六
	古間村のあらまし	八六六
	富士里村赤心寮	八六七
	柏原村のあらまし	八六七
6	高校教育(旧中等教育)のあゆみ	八七五
	北部農学校	八七五
	上水内北部高等学校	八七五
	上水内北部高等学校柏原分校	八七五
	上水内北部高等学校信濃尻分校	八七五

3	風俗・習慣	八九二
1	冠婚葬祭	八九二
	お産と冠儀	八九二
	婚儀よもやま	八九二
	公営結婚式のうまれるまで	八九二
	葬儀について	八九二
2	六月部落の民俗調査	八九二
3	民俗行事	八九二
4	子どもの遊び	八九二
5	方言	八九二
6	俗謡	八九二
4	農作業と農具・生活具	八九四
1	作業別用具	八九四
2	農具の変遷と生活具	八九四
5	宗教	八九九
1	信濃町の神社	八九九
2	信濃町の寺院	九〇三
3	戦争のあと(戦歿者名簿)	九〇七
	黒姫郷(満州開拓団のこと)	九〇九
	史跡・名勝・観光・伝説	九一〇
1	野尻湖を中心として	九一〇
2	野尻湖開発の歴史	九一〇
3	黒姫山・飯綱山のあたり	九一〇

4	一茶めぐり	二五
5	伝説	二七

信濃町の誕生とそのあゆみ

一	信濃町が誕生するまで	二九〇
1	合併に至るまでの経過	二九〇
2	合併の際の協議協定事項	二九八
3	新しい町について	三〇〇
二	合併町村ごとの沿革	三〇三
三	新しい信濃町のあゆみ	三〇六
1	主なできごと	三三六
2	人口、戸数のうつりかわり	三三九
3	財政のうつりかわり	三四〇
4	道路整備のあらまし	三四三
5	農業のうつりかわり	三五〇

史料(古文書)

第一部	基礎史料	三三三
史料1	刊本大般若經	三三三
史料2	武田文元軍忠状	三三三
史料3	上杉景勝家臣連署状	三三三
史料4	久秀黒印状	三三三
史料5	大久保石見守長安条目	三三三
史料6	大久保長安新田開免許状	三三三

史料7	甲田新右衛門新田百姓取立判物	三五五
史料8	杉山政長新田開免判物	三五五
史料9	柏原問屋六左衛門の仁之倉人夫使用に いての規定	三五五

史料10	里方村々と富士里地区新田諸村との野山 論判決書	三五六
------	----------------------------	-----

第二部 村定

史料11	松平忠輝老臣連署伝馬宿条目	三五六
史料12	伝馬宿書出し	三五六
史料13	宿駅屋敷高免除手形	三五六
史料14	柏原村往来諸事覚	三五六
史料15	柏原宿運営についての村民取極書	三七四
史料16	人馬賃銭割増し願書	三七九
史料17	川東道出入判決	三七九
史料18	御評定所川東通再出入判決	三八一
史料19	災害記録	三八三
第二部	村定	三八五
村定1	安永三年柏原村	三八五
村定2	文化十一年柏原村	三八六
村定3	天保四年柏原村	三八六
村定4	天保五年柏原村	三八八
村定5	天保六年熊倉	三九〇
村定6	明和九年板橋村	三九三
村定7	天明二年板橋村	三九三
村定8	文化二年板橋村	三九三
村定9	文化三年板橋村	三九四

村定10	文化七年板橋村	三九四
村定11	弘化四年稲付村	三九五
村定12	明和九年柏原村	三九五
村定13	明治二十三年柏原村	三九六
第三部	村明細帳	三九六
享保九年	熊坂村明細帳	三九七
元文四年	柏原村明細帳	三九七
宝曆四年	柏原村明細帳	三九八
文政十三年	柏原村明細帳	三九七
享保十年	仁之倉村明細帳	三九八
宝曆十年	仁之倉村明細帳	三九八
文化元年	仁之倉明細帳	三九九
文政十三年	仁之倉明細帳	三九九
宝曆十年	熊倉明細帳	三九八
文化元年	熊倉明細帳	三九九
文政五年	熊倉明細帳	三九九
文化十五年	大古間村明細帳	三九八
享保二年	小古間村明細帳	三九九
文政十三年	小古間村明細帳	三九九
享保九年	荒瀬原村明細帳	三九八
享保九年	柴津村明細帳	三九八
享保七年	舟竹村明細帳	三九八
曆の改正		三九八
年表		三九八
あとがき		三九八

町誌読解のために

石高||租税を徴収すべき田畑の納税負担力の標準をいう。

石盛||耕地および屋敷の品位を定め、これに対応する石高を定めたもの。

分米||田畑屋敷などの石盛をその一筆ごとの面積に乗じて得た積をいう。

夫食||江戸時代農民の食米に充つ米穀をいう。凶作の時は領主より夫食借受けることがある。

夫錢||江戸時代夫役に出ない時かわりとして納める錢をいう。

入会||一村以上の百姓がある区域の山林株場に入り込み下枝・馬草を採草することをいう。

運上||徳川時代の雑税。

除地||無年貢の地を指す、多くは神社、仏寺の所領地で金租を納めない地のこと。

助郷||宿駅備付けの馬を補うため、附近の郷村に出駅を命ずる法。

免状||徳川時代の租税割付状のこと。田畑収穫の中で年貢として徴収し、その余りは免じて百姓の収入とする、ということよりの語。

物成||徳川時代の百姓の納める本税。

免||税率のこと。例えば免五ツあるいは四ツ半といえはその

石高に乗すべき税率である。